日本消化器癌発生学会
News Letter
http://www.j-sgc.org/
2012 No.1

## 第23回日本消化器癌発生学会総会準備報告

この度、第23回日本消化器癌発生学会学術総会を徳島県鳴門市で開催させて頂きますことは私と教室員にとって大変光栄なことに存じておりますとともに、前原喜彦理事長をはじめとする本学会関係者の方々に心より感謝申し上げます。会期は平成24年11月15日（木）、16日（金）の2日間、会場は鳴門市のルネッサンスリゾートナルトです（十分に討論に没頭できます）。本学会総会が会員の皆様にとって有意義な会となるべく、鋭意準備に努めております。

今回のメインテーマは、「消化器癌発生研究のセレンディピティ」とさせていただきました。セレンディピティとは、お伽話「セレンディップの三王子」に由来し「思わぬものを偶然に発見する能力」とあります。医学研究に置き換えると、「失敗しても落胆せず、もともと探していなかった何かをひらめくことで成功へと導く能力」といった内容になります。

これまでにも本学会総会では、消化器癌発生研究の発展に寄与することを目的として多くの優れた発表がなされてきました。しかしながら、今なお不治の病である消化器癌を予想をはるかに上まわる短期間のうちに制圧するためには、日々の弛まぬ研究過程における新たな「セレンディピティ」が求められます。一方、特に臨床系では専門医指向が強まり基礎的研究に取組む若手研究者や女性研究者が減少しております。この状況を打開するためには既成概念に捕らわれない多くの若手・女性研究者の参画も本学会の課題と考えます。そこで本学会総会におきましては、特別企画「若手研究者へ向けた癌研究者（トップランナー）たちの提言」にて熱いメッセージを発信すると共に女性研究者のセッション「仮題：悪しき古い慣習を破る研究者のセッション」を企画いたしました。またポスターセッションの座長は応募演題数の多かった施設より若手・女性研究者の推薦を依頼する予定です。本学会総会が、長期的な視点で消化器癌発生研究および本学会の発展に大きく寄与することを期待しています。

皆様方を徳島にお迎えするにあたっては、教室員一同、誠心誠意歓迎する所存ではありますが、地理的な条件はいかんともし難く、ご参加くださる皆様にはなにかとご不便をお掛けすることと存じます。その分、どこよりも大きな“おもてなしの心”で皆様をお迎えしたいと存じます。阿波踊りの企画はもとより、会場ホテルの一室を上下左右の部屋と共に確保し、“ディスカッション部屋”として朝まで熱く議論していただけるような準備も進めております。11月の徳島は良い季節で学問の合間に名所、郷土料理などを堪能して頂ければ幸いです。多数の先生方のご参加を心よりお待ちしております。

第23回日本消化器癌発生学会
会長　島田 光生　先生
（徳島大学大学院消化器・移植外科教授）

目　次

第23回日本消化器癌発生学会総会準備報告 ····1
第22回日本消化器癌発生学会総会報告 ·····2
平成23年度日本消化器癌発生学会
理事会議事録 ·····3～5
役員・評議員名簿 ·····6～7
編集後記 ·····8

# 第22回 日本消化器癌発生学会総会報告

第22回日本消化器癌発生学会総会を平成23年11月25日（金）、26日（土）の2日間にわたり、佐賀市のホテルニューオータニ佐賀において開催させて頂きました。

今回のテーマを「一葉知秋」（淮南子説山訓）とし、紅葉した一枚の葉から秋の訪れを知るごとく、一個の癌細胞から癌の発生、進展を知ることを目指させて頂きました。設立の意義を継承し、企画演題はすべて消化器癌共通とし、一般演題のみを臓器別と致しました。シンポジウムを「消化器癌の分子機序」「消化器癌の浸潤・転移」の2テーマ13演題、ワークショップを「消化器癌発生・進展と微小環境」「癌病理診断・最近の進歩」「消化器癌とmiRNA」「癌分子診断の臨床応用」「消化器癌における新しい分子標的」「エピジェネティクスの臨床応用」「癌個別化治療の現状と今後の展望」とやや贅沢な7テーマに対して応募があるか心配も致しましたが、評議員の先生方のご指導によりレベルの高い43演題を頂戴しました。一般演題も口頭発表として31演題を頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。いずれも驚くほどに質の高い発表で、また、理事・評議員の先生方による見事な司会とフロアの先生方からの質問、アドバイスでさらに充実したセッションにして頂きましたことにも御礼申し上げたいと思います。

特別講演は東京大学大学院の宮園浩平教授に「がんの浸潤・転移機序に基づく分子標的治療」を、教育講演に予定していたStanford大学のAlexander Urban博士は残念ながら直前の肺炎のため中止になりましたが、国立がんセンターがんゲノミックス研究分野長の柴田龍弘先生に「個別化医療の実現に向けたがんゲノム研究の現状と展望」を、また、大阪大学大学院の森正樹教授には「癌幹細胞研究の現状と未来」をお話し頂き、それぞれ消化器癌研究の今後の指標となる方向性をお示し頂きました。その他ランチョンセミナーを2題、イブニングセミナーを２題お話し頂きましたが、なかでも東京大学大学院の浦野泰照教授には「オリジナル蛍光プローブ開発によるin vivoがんイメージングの新展開」と題してがんの蛍光可視化を講演頂きましたが、電子論文発表でマスコミにも大々的に取り上げられた直後の初めてのご講演となり、実際の可視化映像まで見せて頂きトピック性の高い望外の講演に会場が湧きました。

また、その後の会員懇親会にも多くの先生方にご参加頂き、今回から始まった理事長による前日の優秀演題賞に引き続き、一般演題からの優秀演題賞を会長から授賞させて頂きました。次回徳島での島田光生会長による第23回のご案内も含め、懇親の輪を広げることができました。

今回、私の後任の一般・消化器外科学教室に事務局をお願いし、旧教室員一同で準備・運営にあたって頂きました。一同に感謝しますとともに至らなかった点も多々あるかと思いますが、ご寛容のほどお願い申し上げます。

本会の益々のご発展を祈念申し上げます。

**第22回 日本消化器癌発生学会総会**
**会長　宮﨑　耕治**

東京大学大学院 浦野泰照 教授による、電子論文で話題となった「オリジナル蛍光プローブ開発によるin vivoがんイメージングの新展開」の本邦初めての講演。司会は東京大学大学院宮園浩平教授

# 平成23年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日時：平成23年11月14日（木）16：20～17：25
場所：ホテルニューオータニ佐賀　天山
出席者：前原喜彦、宮﨑耕治、伊東文生、江角浩安
落合淳志、桑野博行、汐田剛史、島田光生
夏越祥次、馬場秀夫、平川弘聖、源　利成
安井　弥、吉田和弘、牛島俊和（敬称略）
オブザーバー：森田　勝
事務局幹事：清水伸幸、調　　憲
事務局（クバプロ）：齋藤英司、山口ひと美
委任状：（理事）今井浩三、岡　正朗、高後　裕
菅野健太郎、瀬戸泰之、森　正樹
（監事）井藤久雄、立松正衛、平田公一（敬称略）

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、前回議事録の承認ののち、議事録署名人として桑野博行理事、安井弥理事を指名し、議事が進められた。

### 第１号議案　庶務報告

調事務局幹事より、会員の動向が次のとおり報告された。

2010年11月から2011年10月までに新入会61名、退会32名の増減があり、2011年10月31日現在の会員数は816名である。

### 第２号議案　役員選考委員会報告

桑野博行委員長より以下の報告があった。

① 役員について

・前原理事長以下全理事、監事が2年の任期満了を迎えるが、全理事、監事を再任することが承認された。
・新理事長については、役員選考委員会として理事会に対して前原理事長の再選を提案したい旨報告があり、理事会としても全会一致で前原理事長を再選した。
・小西文雄理事、立松正衛監事は定年にともない名誉会員として、小川健治評議員は定年にともない特別会員として、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、承認された。
・次期会長に豊田 実理事（札幌医科大学生化学）が内定していたが、本年4月に体調不良のためご辞退の申し出があったため（その後本年6月に急逝）、持ち回り理事会を開催し、島田光生理事（徳島大学消化器・移植外科学）を次期会長に選出している旨報告された。
・次々期会長に源 利成理事（金沢大学がん研究所）が推薦され、承認された。
・逝去された豊田 実先生についても名誉会員に推挙することが承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

② 理事選考について

・平成21年度第3回理事会での「運用上理事定員を若干上回ることも許容される」との議決に基づき、竹之下誠一評議員が理事として推薦され、承認された。

以上について、引き続いて開催される評議員会、総会で承認を得ることになった。

③ 評議員選考について

・新評議員として、大上直秀氏、檜原 淳氏、伊藤心二氏、相島慎一氏、金田篤志氏、大賀丈史氏、佐伯浩司氏、白川靖博氏、市川大輔氏、石神純也氏、石河隆敏氏、藤原義之氏、隈元謙介氏、宮内英聡氏、大辻英吾氏、松原久裕氏、藤原俊義氏、武冨紹信氏、沖 英次氏、八尾隆史氏の20名を推薦することが承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

### 第３号議案　編集・国際委員会報告

安井弥委員長より以下の報告があった。

① 国際消化器発癌学会（ISGC）の運営について

・第7回国際消化器発癌学会（The 7th International Conference of the International Society of Gastroenterological Carcinogenesis）はフィラデルフィア大学のProf. Anil Rustgiが会長となって、2012年9月にフィラデルフィアで行われる予定である。
・2014年の第8回については前原理事長が会長となって日本で開催される予定である。
・本学会の評議員は、自動的にISGCの会員に登録されることとなっており、2010年度から評議員より1,000円を国際学会登録料として徴収しているが、これについては国際学会へ大会運営助成金として支払い、それに見合った形での日本からの参加費減免などを求めていくことが承認された。

② Oncologyについて

・2011年12月31日を以てKarger社とのOncologyに関する契約を解除することが報告された。
・Oncologyへの投稿の状況を見ると、JSGCのメンバーであると明記したうえで投稿されたものでもrejectされるケースがあり、契約解除はやむを得ないとの意見があった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

### 第４号議案　G-Project委員会報告

安井弥委員長より以下の報告があった。

① G-Projectの最終解析結果について

・p53, VEGF-A, VEGF-CRegIV, GW112, claudin18,

MMP-7の7因子とHER2（胃癌のみ）昨年の委員会以降に追加染色CA4.4A（大腸癌などでの予後因子として報告のあったglycolipid-anchored membrane proteinで転移関連遺伝子として報告）
以上、最終合計9因子での検討結果

1. T,N因子など他の臨床病理学的背景因子とこれら因子での発現と再発との相関を解析
1）胃癌220例の検討では、pT, pN, Stageとly, v因子と再発の有無との有意な相関関係が認められたが、上記9因子で再発との有意な相関は認められなかった。Stage別の解析では、StageⅡでMMP-7発現陽性例において有意に再発例が多かったが、StageⅢではいずれの因子でも相関はなかった。（資料1, 2, 3）
2）大腸癌220例の検討では、胃癌同様にpT, pN, ly因子と再発の有無との有意な相関関係が認められたが、上記9因子で再発との有意な相関は認められなかった。Stage別の解析では、StageⅡでRegIV発現陽性例において有意に再発例が多かったが、StageⅢではいずれの因子でも相関はなかった。（資料4, 5, 6）

2. 各因子発現におけるOS, DFSでの予後解析
1）胃癌のOSでは、stageⅡ＆Ⅲ全体で、p53発現陽性例で有意に予後不良であり、MMP-7発現陽性例で予後不良の傾向にあった。Stage別ではStageⅡではp53, MMP-7陽性例で予後不良であったが、StageⅢではいずれも差は認められなかった。（資料7, 8, 9）
2）胃癌DFSでは、OS同様stageⅡ＆Ⅲ全体で、p53, MMP-7発現陽性例で有意に予後不良であった。Stage別ではStageⅡでは MMP-7陽性例で有意に予後不良であったが、StageⅢではCA4.4A陽性例で再発予後不良であった。（資料10, 11, 12）
3）大腸癌のOSでは、stageⅡ＆Ⅲ全体で、VEGF-C, RegIV発現陽性例で有意差はないが予後不良であった。Stage別では、StageⅡではVEGF-C, RegIV発現陽性例で有意に予後不良であったが、StageⅢではいずれも差は認められず、MMP-7陽性例で予後不良の傾向にあった。（資料13, 14, 15）
4）大腸癌DFSでは、stageⅡ＆Ⅲ全体で、RegIV発現陽性例で予後不良の傾向が、CA4.4Aで陽性例の再発予後が有意に不良であった。Stage別では、StageⅡではVEGF-C, RegIV, GW112発現陽性例で予後不良であったが、StageⅢではいずれも差は認められず、CA4.4A陽性例で有意に予後不良であった。（資料16, 17, 18）

② 今後の研究実施計画について
・G-projectは平成17年からTMN分類に次ぐG分類の検討を行っており、結果として因子としての有用性は実証できなかったが、この研究の蓄積を生かすべくG-project委員会は研究推進委員会と改組したうえで、さらなる消化器発癌に関する研究を行うべきであるとの意見があり、全会一致で承認された。
以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第５号議案　研究奨励賞選考委員会報告
安井弥委員長より以下の報告があった。
① 平成23年度研究奨励賞の選考結果について
・事前に持ち回りで行った採点の結果、応募のあった石本崇胤、北原秀治、神藤 理、仙谷和弘、間野洋平、安藤幸滋、能正勝彦の7名全員を受賞者とすることが報告され、全会一致で承認された。
・受賞件数3～5件、賞金は1件当たり20万円と要項に記したが、受賞者が7名となったため、1件当たり15万円とすることが報告され、全会一致で承認された。

② 平成24年度研究奨励賞のスケジュールについて
・事務局より、平成23年度要項を基に作成された平成24年度要項が提出され、受賞件数「3～5件」を「5件程度」、賞金額「20万円」を「20万円程度」と修正したうえで、全会一致で承認した。
以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第６号議案　倫理問題検討委員会報告
吉田和弘委員長より以下の報告があった。
①「日本消化器癌発生学会利益相反の取扱いに関する指針」の制定について
・昨年の総会で、指針を策定することが決議されたことを受け、吉田委員長、森田委員を中心に指針案を作成してきた経緯が説明された。
・これを受け、作成された指針案について慎重に審議を行い、指針案は全会一致で承認された。
・指針は平成24年6月1日から施行するものとし、学会役員及び各委員会委員長、倫理問題検討委員は平成23年1月1日から12月31日までの期間の利益相反自己申告書を提出することとなった。
以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第７号議案　財務委員会報告
島田光生委員長より以下の報告があった。
① 平成22年度決算報告について
・平成22年度の決算について、島田委員長より資料をもとに次のような報告があった。
1. 一般会員の会費の納入が多くあり、会費収入が増えている一方、未納会員も多くあり、引き続き未納者に対して会費納入を広く呼びかけるべきであること。
2.「広告収入」について、ニュースレター広告の収入が減少したものの、バナー広告がそれを上回ったこと。

3. G-project関係の支出が予算を下回り、支出の縮減につながったこと。
4. それらの結果、繰越金の大幅な増加があったこと。
5. これらについて、平田公一監事、立松正衛監事、井藤久雄監事より適正に執行されていることを確認したとの監査報告書が提出されている。

② 平成23年度予算について
・平成23年度の予算案について、平成22年度決算に基づいて、収入についてはほぼ同額を見込む一方、支出については研究奨励賞賞金として105万円を計上しているが、財政的には安定している旨、また来年以降はG-project経費、Oncologyにかかわる支払いなどが減少することが予想され、財政はより安定する方向に向かうことが、島田委員長より資料をもとに説明があり、審議を経て承認された。
・また、東日本大震災被災者に対する会費免除措置について、前原理事長より数名の免除申請者があることが報告された。

③ 会費未納者への対策について
・各施設の未納者の納入を促すよう評議員に呼び掛けるため引き続いて行われる評議員会で未納者リストを配布することが確認された。
・次年度以降は会費未納者リストについては50音順ではなく、地域、都道府県ごとのリストにし、各評議員が自分の所属の会員に対し督促を行いやすいよう考慮するよう事務局に要求があった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第8号議案　在り方委員会報告

夏越祥次委員長より以下の報告があった。

① 会員数の増加について
・前回前原理事長が行ったアンケートに基づく会員数の増加策、学会活性化策について、今年度より研究奨励賞を実施するなど、若手あるいは病理基礎の先生にも入会しやすいように努めた結果、昨年より会員数が30名ほど増加していると、夏越委員長より報告された。
・これらをふまえ、これまでの質の高い学会は維持しつつ、会員数を増やし、学会活動を活性化するために今後も検討を続けていくこととなった。

② プログラムのアンケート（評議員）について
・他の学会を参考に、在り方委員会として全評議員を対象に総会のプログラムに関するアンケート調査を行うことが夏越委員長より提案され、総会プログラムにとらわれず学会に関して幅広く評議員の意見を集約するアンケートを行うことが承認された。

③ G-projectの新たな検討について
・安井委員より、本委員会に先立って開催されたG-project委員会について報告があり、G-project委員会は研究推進委員会に改組し、G-projectでの成果を大切な学会財産として引き継いで、新しい研究を行っていくことが承認された。

④ その他
・前原理事長より、臨床医学分野の施設において、また基礎医学分野の施設において優れた業績を挙げた研究者の功績を讃える賞として、それぞれ大原毅賞（大原賞）、田原榮一賞（田原賞）の創設が提案され、全会一致で承認された。
・同賞の授賞候補者は、50歳未満の日本消化器癌発生学会会員とし、選考は研究奨励賞選考委員会にて選考を行い、名称も学会賞選考委員会と改めることが全会一致で承認された。
・研究奨励賞選考委員会を学会賞選考委員会と改組するに当たり、落合淳志理事、汐田剛史理事、夏越祥次理事、森 正樹理事を新たに委員に加えることが提案され、全会一致で承認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会にて承認を得ることとなった。

第9号議案　会則委員会報告

前原理事長より、今年度は会則委員会の開催がなかったことが報告された。

第10号議案　第21回学会総会（2010年）報告

第21回日本消化器癌発生学会総会は、平成22年11月18日から19日に長野県北佐久郡軽井沢町、軽井沢プリンスホテルで開催され、盛況であった旨、桑野理事より報告された。

第11号議案　第22回学会総会（2011年）報告

第22回日本消化器癌発生学会総会は、平成23年11月25日から26日に佐賀県佐賀市、ホテルニューオータニ佐賀で開催される予定であることが宮崎理事より報告された。

第12号議案　第23回学会総会（2012年）準備報告

第23回日本消化器癌発生学会総会は、平成24年11月15日から16日に徳島県徳島市、ホテルクレメント徳島で開催される予定であることが島田理事より報告された。

第13号議案　第24回学会総会（2013年）について

第24回日本消化器癌発生学会総会会長に源 利成理事が推薦されたことが報告され、平成25年に金沢大学の担当で開催されることが承認された。

以上

## 役員名簿

2012年9月1日現在

理事長　前原　喜彦

理事（24名）

伊東　文生　今井　浩三　牛島　俊和
江角　浩安　岡　正朗　落合　淳志
上西　紀夫　桑野　博行　北川　雄光
高後　裕　汐田　剛史　島田　光生
菅野健太郎　瀬戸　泰之　竹之下誠一
夏越　祥次　馬場　秀夫　平川　弘聖
前原　喜彦　源　利成　宮崎　耕治
森　正樹　安井　弥　吉田　和弘

会　長　島田　光生

次期会長　源　利成

監事（2名）

井藤　久雄　平田　公一

事務局幹事（3名）

清水　伸幸　調　憲　野村　幸世

## 名誉会員・特別会員名簿

2012年9月1日現在

名誉会員（20名）

大原　毅（名誉理事長）
杉町　圭蔵（名誉理事長）
愛甲　孝　青木　照明　内田　雄三
小川　道雄　小俣　政男　金澤暁太郎
北島　政樹　小西　文雄　佐治　重豊
杉村　隆　曽和　融生　立松　正衛
田原　榮一　田尻　孝　寺野　彰
二川　俊二　三輪　晃一　門田　守人

物故者　恩田　昌彦　下山　孝　長町　幸雄
長與　健夫　磨伊　正義　久保田哲朗
豊田　実

特別会員（33名）

朝倉　均　磯野　可一　岩永　剛
岡島　邦雄　小川　健治　冲永　功太
笠原　正男　兼松　隆之　木村　健
小西　陽一　斉藤　利彦　塩崎　均
砂川　正勝　炭山　嘉伸　曽我　淳
高橋　俊雄　竜田　正晴　田中　紀章
徳永　昭　西野　輔翼　服部　隆則
比企　能樹　平山　廉三　廣田　映五
藤田　力也　船曳　孝彦　三木　一正
武藤徹一郎　武藤　泰敏　棟方　昭博
安富　正幸　山川　達郎　渡辺　敦光

物故者　馬場　正三

## 評議員名簿

2012年9月1日現在

(139名)

相島　慎一
浅尾　高行
油谷　浩幸
池口　正英
石神　純也
石河　隆敏
市川　大輔
伊藤喜久治
伊藤　心二
井藤　久雄
伊東　文生
今井　浩三
上野　真一
牛島　俊和
内田　英二
宇都宮　徹
江頭　明典
江上　寛
江角　浩安
大上　直秀
大賀　丈史
太田　哲生
大辻　英吾
大平　雅一
岡　正朗
緒方　裕
沖　英次
長田　真二
落合　淳志
掛地　吉弘
片岡　洋望
加藤　俊二
加藤　広行
金田　篤志
上西　紀夫
川口　実
川又　均
川上　和之
北川　雄光
北台　靖彦
工藤　進英
國安　弘基
久保　正二
熊谷　一秀
隈元　謙介
倉本　秋
栗田　信浩
桑野　博行
高後　裕
後藤　満一
今野　弘之
佐伯　浩司
澤田　鉄二
汐田　剛史
篠村　恭久
島田　信也
島田　光生
嶋田　裕
嶋本　文雄
清水　伸幸
下山　省二
菅井　有
城　卓志
白川　靖博
調　憲
白水　和雄
末廣　剛敏
菅野健太郎
杉原　洋行
鈴木　秀樹
瀬戸　泰之
髙橋　孝夫
田中　信治
高橋　豊
高森　啓史
田久保海誉
武冨　紹信
竹之下誠一
田渕　崇文
塚田　一博
塚本　徹哉
辻谷　俊一
藤　也寸志
冨田　尚裕
内藤　善哉
永井　秀雄
中島　秀彰
仲田　文造
中森　正二
中山　淳
長田　成彦
名川　弘一
夏越　祥次
楢原　啓之
西森　英史
西山　正彦
野口　剛
野村　幸世
秦　史壮
馬場　秀夫
檜原　淳
平川　弘聖
平田　公一
別府　透
前原　喜彦
藤井　茂彦
藤村　隆
藤盛　孝博
藤原　俊義
藤原　義之
真船　健一
松川　正明
松倉　則夫
松原　長秀
松原　久裕
松本　伸行
宮崎　達也
源　利成
峯　徹哉
三森　功士
宮内　英聡
宮崎　耕治
宮地　和人
向所　賢一
森　正樹
森田　勝
八尾　隆史
八代　正和
安井　弥
八十島孝博
山口　明夫
山口　佳之
山下　洋市
山本　博幸
横崎　宏
吉田　和弘
吉松　和彦
渡邉　聡明
渡邊　雅之

(50音順)

## 編集後記

インターネットが発達して情報伝達の中心は紙媒体からホームページへと移行していますが、本学会では年1回のニュースレターをお届けしています。インターネット上の情報は、上書きされたり削除されたりすると閲覧できなくなるので常に時間に追われている印象がありますが、紙媒体は手元に残るので何となく安心感を抱く私は古い体質の人間なのでしょうか。

未曾有の大震災から1年半が経過しましたが、未だその余波は消えること無く、電力供給問題などの様々な問題が議論されています。先日訪れたニューヨークでは9/11で倒壊した世界貿易センタービル跡に祈念の建築物（ビル跡に2個のプールが作られ、その周囲に犠牲になった方々のお名前が彫られていました）が公開されていましたが、10年以上の月日が経った今でも工事は完了していませんでした。大きな災害からの復興には実に長い時間がかかるものだと感じた次第です。

また今年は、これまで北方領土以外には話題にのぼることの少なかった、近隣諸国との領土に関する問題がクローズアップされています。政治的な判断は国に任せ、近隣各国の研究者との交流は引き続き保っていきたいものです。

明るい話題としては、ロンドンオリンピックで日本が史上最多の38個のメダルを獲得し、世界6位であったことでしょうか。金メダルは少なめ（7個）でしたが、この数は立派なものと思います。日本が医学研究の面でも世界に向けて強い発信力を保てるよう期待していますが、本学会がその一助になれば幸いです。

さて、本年の第23回日本消化器癌発生学会総会は徳島大学大学院消化器・移植外科学教授　島田光生先生が徳島で開催して下さいます。本会が発足して24年目にして初めての四国地方での開催となります。私の個人的な話で恐縮ですが、平成5年に出席した大阪での学会の帰りに、上西紀夫先生（本学会前理事長）に連れられて初めて四国の地に足を伸ばし、某製薬会社の研究所に出向き、*Helicobacter pylori*菌の培養をご教授頂いたのが自分の本格的な研究生活の始まりでした。その研究もあって本学会での発表の機会を幾度となく与えて頂くことができたので、徳島に出向くことを考えると当時のことが懐かしく思い出されます。

会員の皆様と徳島の地でお会いできることを楽しみにしております。

事務局幹事
清水伸幸

発行　日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F
株式会社クバプロ内
TEL：03-3238-1689　　FAX：03-3238-1837
発行者　日本消化器癌発生学会
編　集　総務委員会
印　刷　福々印刷株式会社